

深刻化する若者の失業問題
(現地誌の翻訳)

チケットを取り、椅子に座り、呼ばれるのを待つ。ダニエル・ヴェトロフスキー (Daniel Vetrovsky) は、既にこのプロセスを学んだ。ヴェトロフスキーは、地元のハローワーク通いをこの4年間続けている(職があっても短期雇用の繰り返しという意味)。22才のヴェトロフスキーは、チェコで増加傾向にある同じような境遇の若者の一人である。

「少し落胆している」とヴェトロフスキーは、過去の経験を思い出し悲しげな眼で話をした。「もしあなたが十分なお金を持っていなければ、履歴書を送り、多くの求人に応募しても、返信があまり期待できない状況は、フラストレーションがたまるばかりだ。自分のキャリア形成をどうすればよいのか、自分はただアルバイトを探すだけなのか、しかし、そのアルバイト代金は驚くほど安い」とヴェトロフスキーは述べている。

最新のデータによると、25才以下のチェコの若者10万人が失業しており、若者の失業率は2009年以来最高の20%となっている。この不名誉な数値は、若者だけではなく、一般の失業率上昇も映し出しており、労働社会省(The Labor and Social Affairs Ministry)は2013年2月8日、1月の平均失業率が8%を超えたと発表している。ヴェトロフスキーは、2008年に高校を卒業した後、大学を2度中退した。大学では、地理学と心理学を専攻していた。ヴェトロフスキーは、一時、セミプロサッカーチームのコーチをしていたが、その後、昨年2012年10月から職探しを再開した。光が見えない中、ヴェトロフスキーは今も、両親や祖父母の支援を受け自宅暮らしを続けている。このような状況にあっても、ハローワーク(Labor Office)はヴェトロフスキーの健康保険料は支出しているが、彼は失業者手当(unemployment benefit)については、彼と同年代の若者同様、過去3年間に最低限必要な12カ月の労働を行っていないことから、要求することは出来ない。

ヴェトロフスキーは、インターネット関連や新聞社関連での空席を狙い、一週間に4社~5社に応募している。しかし、その大部分においては、学位不足もあり、雇用主からの返信は頂けていない。

「学歴としては大卒が期待されており、結果として大卒でなければ、職を見つけるのは難しい」とヴェトロフスキーは述べている。又、同氏は、「彼ら(雇用主)はいつも経験を求めており、又、そのことが書かれた履歴書を待っている。彼ら(雇用主)は決して、分りました、我々はあなたを雇用して試してみましよう」とは言わないと述べている。

チェコ経済は、輸出の低下と内需不振によりリセッションに陥っており、雇用主は新規雇用の見送りをしている。この結果、若者世代の間では、「ロストゼネレーション世代」になるのではないかという不安が広がっている。アナリストは、「この世代は、ポジションを獲得する為のスキルの向上がなければ、将来、雇用される可能性がより少なくなり、又、長期に渡り健康上の問題を抱えやすい」と述べている。

欧州連合の当局者も若者の失業問題を憂慮しており、欧州大統領のヘルマン・ファン・ロンパウは、EU27 カ国におけるこの問題を改善すべく、先月（2013年2月）、ブラッセルでのサミットにおいて60億ユーロの支出を決定した。

「リセッション時に労働市場に入っていく人々は、その景気状態からサラリーが低く抑えられることにより、デメリットが生涯続いていくということが、調査の結果明らかになっている」とプラハに拠点を置くシンクタンク CERGE-EI のエコノミスト・ダニエル・ミュニフ（Daniel Munich）は述べている。又、同氏は、「今、起こっていることは、労働市場に出て経験を積み、信任状を得ようとしている若者にとって、ネガティブなインパクトである」とも述べている。

一生懸命勉強してこなかったことをヴェトロフスキーが後悔している間、彼は同時に教育システムが、労働市場の欲しているものと合致していないのではないかと非難している。教育システムについては、批評家も又、学校教育は画一的であり、実際に役立つことよりも学ぶことに重きが置かれており、オフィス（実社会）で役立つ内容とはなっていないとしている。

「労働市場に入っていこうとする者に対する適切な事前アドバイスが不足している」とヴェトロフスキーは述べている。ヴェトロフスキーは、高校在籍時に誰かが自分を正しい方向に導き、又、相応しいキャリアパスについて提案してくれていたら、と思っている。しかし、実際には、そのようなことは起きなかった。

「自分は、自分が何をしたいのか分からなかったが、実際、何を選択しようが、このこと自体は問題ではなかった。皆が労働する経験（職）を欲しているが、私を含め、私も学校に通っていたが、労働する経験は得られなかった。学校に行くことは、労働することと絡めた視点から何ら焦点が当てられていない」とヴェトロフスキーは述べている。

グラフトン・リクルートメント（Grafton Recruitment）のマーケティング担当者ラデック・ラツィナ（Radek Lacina）は、教育システムについて他の視点から問題点を指摘している。それは、卒業生が持つ技能と労働市場が欲する技能との間で、ミスマッチが存在するというものである。

同氏は、「余りにも多くの学生が人文系学部に進学しており、その一方で、非常に少数の学生しか技術系学部に進学していない。将来ある学生は、自分自身の将来設計について注意深く決定する必要がある。労働市場には、余りにも多くの弁護士やビジネスマン、それにマーケティング専門家がおり、この分野の労働市場は飽和している」と述べている。

多くの学生が大学に通い学位を取得しているが、これとて職を保証するものではない。

チェニェック・モラヴェツ（Cenek Moravec）は、最近、プラハにあるチェコ工科大学（The Czech Technical University in Prague）で”The Economics of Civil Engineering”（土木工学）を終了した。モラヴェツは、在学中に都市計画の分野に関連した労働経験があったことから、この分野でのキャリア形成を目指したが、大学卒業後3か月が過ぎた今も、空席を見つけることが出来ていない。かつて花形であったこの業界も、現在はリセッションにより厳しい状況にある。

「過去3年間、土木工学分野は大幅な不況に見舞われている」とモラヴェツは述べている。又、同氏は、「自分が大学に入学した頃、誰もが卒業試験終了と同時に職を得ていた。当時は、雇用主が大学にやって来て、教室から出て来る学生を待ちかまえていたものだ」とも述べている。

前出のラツィナは、「経済危機以前は、若者の中でも、特に大卒については、市場価値があった。しかし、現在では状況は変わってしまっている。企業は足元固めに精を出しており、（将来の経済状態を）恐れており、柔軟性を失っている」と述べている。

しかし、同氏は一方でまた「将来に明るさがない訳ではない」とも述べている。「もし企業が自分の成長を信じるのなら、若く、経験のない人間を雇い入れることもできる。例え経験がなかったとしても、あなたはその若さを武器に雇われることになる。しかし、もし企業が短期的視野に基づき、柔軟性や効率のみを追求するのであれば、企業は経験を積んだワーカーのみを求める」と述べている。

結果として、雇用主は、被雇用者に対して要求水準を上げ続ける。2012年6月にアングロ・アメリカン大学を卒業した22才のレンカ・フルドコヴァー (Lenka Hrudkova) は、自分が勉強した学問分野と関連した職のみならず、何でもよいから職を得る努力をしている。

「自分は絶望的になってきたので、又、母も職のない状態の自分を見るのを嫌がったことから、ホテルのレセプション係などにも応募した」とフルドコヴァーは述べている。「自分はレセプション係に応募し、その結果、彼らは返信を下さり、その中で「もっと良い応募者がいた」と記してあった」とフルドコヴァーは述べている。「ホテル側は、自分に英語とイタリア語、それにドイツ語のテストを行った。他に何があるのか、何て言ったらいいのかわからなかった」ともフルドコヴァーは述べている。

結局、フルドコヴァーは、ジョンソン&ジョンソン社からジュニア・コンサルタントとして短期契約の提示を受けたが、この提示は、フルドコヴァーが20人に一人しか合格しない厳しいインタビューを突破した後であった。

記録的な高失業率は、労働組合の活動を活発化している。CMKOSの傘下組織に属するパヴェル・ヤニーチュコ (Pavel Janicko) は、警告を発している。政府は緊縮よりも成長を柱にすべきだ。「政府支出の削減は経済成長を妨げる一方で、失業手当等の支出を増加させる。雇用政策支出は、他のEU諸国の1/10にとどまっている」とヤニーチュコは述べている。

これに対する反応として、ルドミラ・ミュレロヴァー (Ludmila Mullerova) 労働社会相は、CMKOSの労働組合委員長ヤロスラフ・ザヴァディル (Jaroslav Zavadil) と定期会談を持つ一方、ネチャス首相はプレッシャーに押され、ザヴァディルと求人市場の底上げにつき、一対一で会談を行っている。

若者の失業率を抑制するというCMKOSの提案は、ハローワークに幅広い役割を担わせるものであり、アクティブ雇用プログラムや人員解雇しない代わりに時短労働を推進する所謂”Kurzarbeit” (労働者を解雇する代わりに時短労働を導入する企業に対しては政府から

補助金が支給される)についても、EU 基金の分配にフォーカスした施策となっている。

しかし、前出のエコノミスト・ミュニフ氏は、「CMKOS の提案する政策は、労働法の変更を必要とするものであり、実施には時間が必要」と警告している。又、同氏は、「若者の雇用を促進するための税制導入のメリットも低いとみている。なぜなら誰もかれもがこの制度を利用し、挙句の果てに職を簡単に見つけることができるような者まで助成対象となってしまうため、効果が低いと思われるからだ」とも述べている。

「いつの時代も迅速に実行するのは難しい」とミュニフは述べている。「もし政府が労働市場で起きていることについて注意深く見ていなかったら、或いは、政策の効率性について無頓着であったなら、危機がやって来た時、政府は何をすべきか分からない」とも述べている。

エコノミストは、政府は現在の政策が効果的か否かについて判断できる指標を持ち合わせていないばかりか、既にスタッフ不足と IT システムの失敗により混乱しているハローワークに更なる負担を強いるものだと述べている。

「彼らは、ハローワークに登録している人々への窓口対応で忙しすぎる。彼らは、本当のカウンセリングを提供する時間がなく、又、窓口に来て来る人々のプロフィールも作っていない。事実、経済危機が訪れた時、失業率が上昇したにも関わらず、政府はハローワークの職員を減らしている」と前出のミュニフ氏は述べている。

前出のヴェトロフスキーは、「ハローワークはそんなに助けになるものではない。お粗末だ ("The labor office doesn't help you very much: it's pretty terrible.")」と述べている。又、同氏は、「失業者は自分で職を見つけなければならない。何故なら、ハローワークと共に職探しをしたとしても、本当に職が見つかるか疑わしい。時々、失業者はプリントアウトした求人情報を渡されることがあるが、それらは通常、期限切れの情報であるか、求職者に相応しいものではない」とも述べている。

前出のミュレロバー労働社会相自身、昨年スキャンダルに巻き込まれた官庁に大臣として就任した。同相は、「Kurzarbeit」（時短労働者に対しては政府から補助金が支給される）制度を支持し、1,500 万コルナが、雇用政策に支出されると述べている。

加えて、既に 58 年間、チェコ全国のハローワークに 200 名の事務員を配置する計画が言及されているが実現していない。機能していない IT システムを考慮すれば 200 人どころか 500 人必要と、カロウセク財務大臣は 3 月 3 日のチェコテレビの出演に際して、苦言を呈している。

しかし、事務員の追加配置でさえ、実際に状況が改善される迄には、今しばらく時間が必要である。チェコ経済がドイツ向け輸出に大きく依存している中、今年末（2013 年）迄にチェコ経済が回復基調に入るのは難しいとアナリストは述べている。

その間、前出のヴェトロフスキーやモラヴェツのような若者達は、引き続き就職活動を

続け、採用を祈り続けるしかない。

前出のヴェトロフスキーは、「希望半分ではあるが、きっと、いつかどこかで職が見つかり、何かを得ている」と述べる半面、「このまま何も起きず、この状態が続くのかもしれない。自分は（自分が求める）どこにも向かっていない。この状態にはイライラさせられる」とも述べている。

以上

出展：The Prague Post (March 6-March 12, 2013)

翻訳についての一切の責任を負いません。内部限り。